

2018年3月31日

玉川大學教育博物館



## 目次

展覧会への招待	2
報告	3
資料をご寄贈いただきました	5
開館カレンダー	
利用案内	6

## 掛図 動物第二 鳥類一覽

文部省 銅版墨刷・木版色刷

72.0×55.8cm 明治8(1875)年

明治4(1871)年に文部省が設置され、翌年の「学制」頒布により、近代学校制度がはじまります。この掛図は、文部省が明治6(1873)年から明治11(1878)年までの間に刊行した植物関係5図、動物関係5図からなる小学校用博物図のうちの1枚です。当時は掛図をもとに教師が問いを発し、生徒が答えるという「問答」の授業が行われていました。動植物を描いた博物図は、子供たちにとって自然科学の学習入門となる性格をもっていたといえます。

## 展覧会への招待

# 明治の教育と博物学

こどもたちが学び楽しんだ、自然をめぐるモノづくり

平成30(2018)年度の企画展として、「明治150年」を記念した「明治時代の教育にみる博物学」を秋に開催いたします。

博物学とは自然界に存在する動物、植物、鉱物を調査し、その種類、性質、分類などを研究するとともに記録する学問であり、今のように科学分野が分化する前の自然物研究の総称といえます。自然物を収集・分類する試みは洋の東西を問わず、古くから行われてきました。東洋では主に薬となる自然物を探求する学問が生まれ、これを本草学と呼びました。対象となる自然物は、文字だけで記録するのではなく、図を付加していくことも進められました。

日本の博物学は、中国の本草書をもとに、漢名で記された自然物を日本のものと比較するところからはじまりました。江戸時代になると、博物学の手法が薬学だけでなく、美術、園芸、農業、食物学、健康法をはじめ、地方の自然や産物を研究する物産学など、さまざまな分野に取り入れられています。さらに、西洋の博物学や科学の影響を受けて、人々の間に自然に対する学問的な興味・関心が深まってきました。

明治5(1872)年に「学制」が頒布されて、近代学校制度がはじまると、博物学は小学校教育の中に取り入れられました。近代科学の合理的な自然観をもとに、身近な自然を観察し、科学的な考え方を養う博物学は、動物、植物、金石(鉱物)に分科され、物理、化学、生理と並んで学校教育の中で重視されています。明治中期になると、博物学は物理、化学、生理を統合した「理科」という科目として、科学教育の基礎を担う科目分野になりました。

展示では、江戸時代の本草学をはじめ、本草学から影響を受けた学問、博物図譜などをもとに、博物学の流れをたどります。そして、学校教育がはじまった中で見られる教育用の絵図、教科書、掛図をはじめ、博物館や博覧会事業の中で制作された博物画、家庭で学び、楽しまれたおもちゃ絵、絵双六、絵本などに見られる博物学をもとに、明治時代の教育を支えた博物学の諸相を紹介いたします。



博物図教授法 文部省編纂  
松川半山註解・画図  
明治10(1877)



小学理科書 卷一  
育英舎編輯所編纂  
明治34(1901)年



幼童教育画葉形 杉山瀧  
木版色刷 明治18(1885)年

◆会期 2018年10月29日(月) ~ 2019年1月27日(日)

◆時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで) 入館無料

◆会場 玉川大学教育博物館第2展示室

【関連事業】 学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ、玉川学園丘めぐり等

※展覧会の詳細は、後日当館ホームページ・チラシ等で発表いたします

# 報 告

## ■企画展「考古資料展」の開催

2017年10月16日から12月17日まで、企画展「考古資料展—玉川学園考古学研究会の軌跡—」を開催しました。これは、玉川学園考古学研究会が1960年代後半に発掘調査をした、町田市所在の御嶽堂遺跡・田端遺跡の正式な発掘調査報告書を、当館が刊行したことを記念した、当館初の考古資料展です。

玉川学園考古学研究会は、玉川学園職員であった考古学者の浅川利一氏を指導者として、玉川大学・玉川学園の学生・生徒で組織したものです。この研究会の活動が盛んであったのは、1960年代後半から10年ほどの間で、その頃の町田市内は大規模開発に伴う遺跡発掘調査が始まっていました。玉川学園考古学研究会は、町田市に拠点を置く最初の考古学研究団体として、市内の遺跡発掘をいくつも手がけました。

展示では、町田市立博物館で保管されている出土品も借用し、御嶽堂遺跡の縄文中期の土器を中心とする48件、田端遺跡の縄文後期から晩期の墓地と環状積石遺構や、縄文中期の住居址に伴う51件の出土品を取り上げ、発掘調査から約半世紀ぶりに、両遺跡の全貌を初めて紹介することができました。

また、玉川学園考古学研究会の活動の歩みを、上記2遺跡以外の調査遺跡の出土品や記録類でたどりました。併せて、玉川学園開校以来、教育活動の中で取り組まれた考古学の研究活動や、考古学研究会を生み出した、玉川学園の「自由研究」の取り



組みについても紹介しました。

さらに2017年8月に玉川学園構内で施設改築に伴い発掘調査をした、本部台遺跡の調査内容と出土品の、速報展示も行いました。

会期中の10月27日、11月23日、12月6日にはギャラリートークを開催し、企画展会場で学芸員が約1時間をかけて、展示解説を行いました。参加者は延べ66名でした。



会期中の開館日57日間の入館者は、1,874名でした。本企画展の図録（A4判64頁）を刊行し、1冊1,000円で販売しています。

この企画展の関連行事として、以下の催しを行いました。

### 体験会

#### 「4000年前の縄文土器にさわってみよう！」

本物の縄文土器や石器にさわったり、土器の文様のつけ方を体験してもらう体験会を、10月28日、11月26日、12月9日の3回、当館ホールで開催しました。縄



文土器を抱えての記念撮影コーナーも設け、楽しんでいただくことができました。この催しは、子どもを想定した企画でしたが、幅広い年齢層の方たち延べ96名にお越しいただきました。

### 学内遺跡見学会

#### 「玉川学園の遺跡と丘めぐり」

11月3日に、玉川学園構内に点在する遺跡等を、学芸員が解説しながら巡る見学会を開催しました。事前に申し込んだ19名の参加者の方と共に、玉川学園構内にのこる縄文時代の集落や、7世紀頃の横穴墓群の遺跡を、その営まれた立地等も考えつつ、約2kmの道のりを90分かけて興味深く見学しながら巡りました。



### ミニシンポジウム

#### 「町田の考古学は玉川学園から始まった！」

11月12日に、当館に隣接する玉川学園中学年校舎講堂を会場に、標記のミニシンポジ



戸田哲也氏による基調講演

ウムを開催しました。

初めに玉川学園考古学研究会OBで玉川文化財研究所代表の戸田哲也氏が、「町田市の遺跡と玉川学園考古学研究会」と題した基調講演を行いました。当時の写真なども多く映写しながら、玉川学園考古学研究会が発掘した遺跡の概要や、当時の研究会の様子などを紹介しました。

続いてパネルディスカッションに移り、まず同じく研究会OBで元玉川学園中学部教諭の多賀譲治氏が、「玉川学園中学部における自由研究考古学部 活動の軌跡」として、同校における考古学の教育実践について、さらに町田市教育委員会学芸員の後藤貴之氏が「町田市における遺跡調査の過去・現在・未来」と題して、市域の遺跡調査の歩みと現状、今後の史跡の整備と活用の方向性について、話題提供がありました。



パネリスト 左から戸田・多賀・後藤の各氏

その後、当館の菅野の司会により3名の登壇者と、町田市域の遺跡調査を手がけた玉川学園考古学研究会が、活動当時どのような問題意識を持っていたのか、研究フィールドとしての町田という街、研究会の指導者で町田市の文化財保護にも尽力した浅川利一氏等について、意見の交換を行いました。

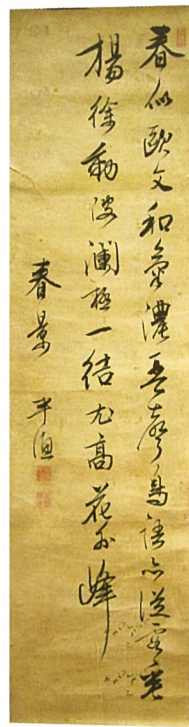
当日は、往年の玉川学園考古学研究会の会員約20名をはじめ、110名の聴衆が参加されました。また、ミニシンポジウム終了後に企画展会場で開催した戸田哲也氏による特別ギャラリートークに、28名が参加しました。

## ■寄贈資料の紹介

### 小笠原東陽および耕餘塾関係資料

当館では、教育者・小笠原東陽の筆蹟と私塾「耕餘塾」で学んだ塾生が所有していた教科書や教育関係資料411点の寄贈を受けました。「耕餘塾」とは東陽が教えていた私塾名です。明治5（1872）年に神奈川県高座郡羽鳥村（現藤沢市羽鳥）の元名主の依頼で、漢学者の小笠原東陽が招かれ、私塾「読書院」が開設されました。その年に頒布された「学制」により、「読書院」は公立小学校として「耕餘学舎」（現藤沢市立明治小学校）と改称されました。東陽はこの時小学校以上の学習内容を教授する私塾を別に存続させています。その後入門者の増加により、新校舎を建て、塾名を「耕餘塾」としました。

「耕餘塾」は小さな私塾でしたが、吉田茂（元首相）、鈴木三郎助（味の素創始者）、中島久萬吉（商工大臣）、平野友輔（自由民権活動家）、外山亀太郎（遺伝学者）など、優秀な人材を多く輩出したことで知られています。



小笠原東陽の書

## ■博物館実習

通信教育課程「学芸員スクーリング」

2018年2月15日～20日 20名

### ■芸術学部卒業プロジェクト展での紹介展示

2月23日から26日まで、横浜赤レンガ倉庫1号館にて、玉川大学芸術学部3学科合同の卒業プロジェクト展「THE MEDIA GARDEN」を開催しました。芸術教育学科プロジェクト紹介コーナーでは、2016年度に芸術学部の協力を得て行われた「カサド・原記念祭」の紹介展示を行いました。



展示風景

### 統計（2017年4月～9月）

開館日数 114日 入館者数 1896名

#### 収集

〔資料〕	日本教育史	3件
	芸術	20件
〔図書〕	和書 115冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	34冊
	洋雑誌	14冊

### 資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2017年10月～2018年3月）

小西 恵	教育史関係資料	1点	鈴木 昭治郎	教育史関係資料	22点
篠原 南都子	教育史関係資料	2点	山田 修	教育史関係資料	15点
久保倉 弘孝	学園史関係資料	2点	川添 孝子	カサド・原関係資料	8点
山口 醇	教育史関係資料	1点	高山 弘三	教育史関係資料	411点
貴志 豊和	教育史関係資料	22点			

ありがとうございました

# 2018年度上半期 開館カレンダー

## 2018年4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

## 5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

## 7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## 8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

## 9月

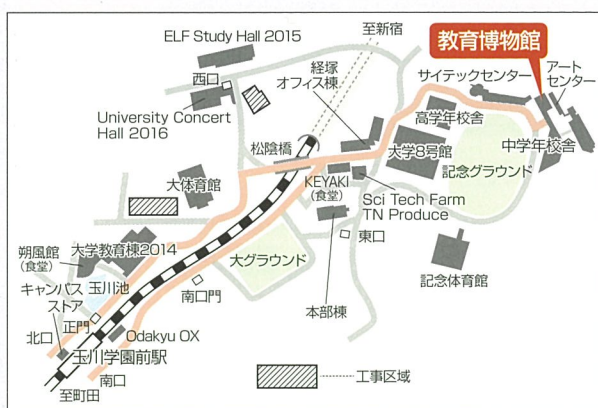
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

休館日
  第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。  
 詳細は当館ホームページをご覧ください。

## 利用案内

- 開館時間** 午前9時～午後5時  
 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日** 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間  
 (展覧会会期中並びに日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料** 無料



### 交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分  
 駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。

(来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車の来館をご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHŪ No.50  
 2018年3月31日  
 編集・発行 玉川大学教育博物館  
 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1  
 TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654  
[www.tamagawa.jp/campus/museum/](http://www.tamagawa.jp/campus/museum/)

『SHŪ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐる、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。